



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



司祭人生の節目を迎える

金祝の永山神父、銀祝の泉神父

教区で働く多くの司祭たちの叙階記念日は3月。その中で2人の司祭が節目の叙階記念日を迎えた。1人は司祭叙階50周年を迎えた永山幸弘神父、もう1人は叙階25年となった泉浩二神父である。長い年月を司祭として、教区のために働いている2人の今後の健康と活躍を祈りたい。



永山幸弘神父金祝

永山幸弘神父(司教館・静養中)が、司祭叙階50周年・金祝を迎えた。

永山神父は1941年12月26日生まれ、長崎県は五島列島出身の永山神父は福岡サン・スルピス大に転籍し、1968年3月20日ザビエル教会で、当時の里脇司教によって司祭の聖位に上げられた。叙階された永山神父はそのままザビエル教会の助任司祭として着任、その後1971年8月から教会法を学ぶために6年間、ローマに留学した。帰国後はザビエル教会助任に復帰し、1978年から紫原教会主任、1982年から玉里教会主任、そして1988年には助任時代を過ごしたザビエル教会主任司祭となった。その間、

教区書記を12年兼務し、また連合壮年会指導司祭、SBU運動の事務局長を務め、玉里教会主任司祭時代には逼迫していた教会財政の正常化を実現させた。ザビエル教会主任司祭に着任してからは、ザビエル上陸450記念祭の記念事業実現に動き、カテドラル再建に乗り出した。

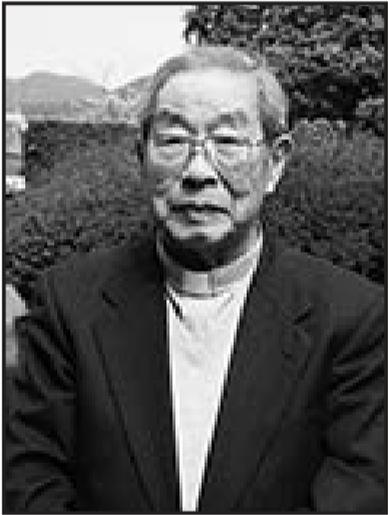
永山神父は、カテドラルであるザビエル教会だが小教区の主任司祭として、その建設資金を少しでも多く小教区で負担するため信徒たちへの協力を訴え続け、実現へと導いた。カテドラル完成後の永山神父は、市民に開かれた教会、教区の宣教基地を目指し、宗教音楽のコンサートや聖書講座、生き方を考える集いなどを開き、21世紀に向かう教会の姿を確立するために精力的に活動した。その後、2006年からマリア山荘で宣教司牧、2011年4月からは聖心教会の主任司祭となり、2017年の同教会改修工事を実現させた後、静養に入った。



泉浩二神父銀祝

銀祝を迎えた泉浩二神父は、泉紫朗・京子さんの4男として1966年7月1

使徒ヨハネ田邊神父が3月5日(月)午前7時53分、入院先の病院で腎不全と上腸間膜動脈血栓症のため帰天した。91歳だった。田邊神父は、長崎県は田平教会の出身。中学校入学後に鹿兒島教区に割り当てられ、鹿兒島教区初



使徒ヨハネ田邊

使徒ヨハネ田邊 徹神父帰天

鹿兒島初の教区司祭として叙階された

の教区司祭として1951年3月28日、山口愛次郎司教によって浦上教会の仮聖堂で叙階された。叙階後はずぐに鹿兒島教区に着任。それから8年余り本土地区をくまなく駆け回り、まだ基礎作りの段階だった教区の基盤を堅固なものにするために働き続けた。その後は1959年6月の瀬留教会を皮切りに古田町教会、名瀬教会で、当時は外国人司祭ばかりだった

奮美で助任司祭を務めた。主任司祭となったのは1968年に着任した笠利教会から。その後名瀬教会、ザビエル教会、指宿教会、種子島教会、志布志教会などで主任司祭を歴任した。そんな田邊神父は2003年3月に心筋梗塞を起こし治療に専念、そのまま引退となった。2005年からは長崎市の純心聖母会本部付きとして働いていたが、2年前にそこを辞して指宿教会近くに移り住み、治療に取り組んでいた。田邊神父の仮通夜は3月6日泉浩二神父の司式で、通夜は翌7日郡山司教司式

▼鄭法鍾神父(吉野教会主任)は、4月1日付で現職のまま隣接する学校法人聖マリア学園吉野幼稚園副園長

012年から再び鴨池教会主任司祭として現在に至っている。現在、司教総代理、会計・広報の部長としても働く泉神父は、2003年の鴨池教会着任当時から園児教育に携わり、同教会付属の聖母幼稚園、加世田聖母幼稚園、枕崎幼稚園の園長としても働き、その温かい人柄で園児、その保護者たちに人気がある。

「今、世界をひとつに」をテーマに 愛と平和の祈り鹿兒島公演

音楽劇「地球のこどもたちへ」、演劇「マリアの祈り」ナガサキの奇蹟、「愛と平和に向けた祈りと合唱」の「愛と平和の祈り鹿兒島公演」が4月22日(日)始良市文化会館「加音ホール」(始良市加治木町木田5348-185)である。

この催しでは、「分裂から統合へ 今、世界をひとつに」をテーマに掲げ、一人ひとりの人間に共通する神から与えられた愛に各人が

気づき、世界中が一つの国(宇宙船地球号)という意識を持ち、地球号の乗組員として、神の教えとして統合されるような世界、それをビジョンとして描こうと呼びかける。愛と平和に向けた祈りと合唱には、鹿兒島純心女子中・高等学校吹奏楽部が友情出演する。チケットは一般が1000円、高校生以下500円、未就学児は無料となっている。

鹿兒島カトリック連合壮年会主催講演会

「福音宣教と信徒の役割」

キリスト教の原点である福音とは何だろう。福音を宣教するとはどういうことだろう。信徒の役割とは何だろう。一緒に考えてみませんか。

講師 森一弘司教(財団法人真生会館理事長)

日時 5月27日(日)13時~16時

場所 ザビエル教会1階ホール

内容 前半=講演(福音宣教と信徒の役割) 後半=質疑応答

参加費 無料(会場カンパあり)

※参加の申し込みは必要ありません。どなたでも参加できます。

※駐車場は利用できません。

教区人事

平成29年台風18号

2017年9月17日午前、中心気圧975hPa(IIヘクトパスカル)、最大風速30%の台風18号が薩摩半島付近を通過。鹿児島湾を経て正午ごろ、鹿児島県垂水市付近に上陸した。その後北上した台風は、大分、宮崎両県を中心に河川氾濫や家屋損壊などの被害を出し、四国へ。瀬戸内海を横断、兵庫県明石市付近に上陸、翌18日には日本海へ抜けた。

大分県津久見市では、17日午後2時15分、市内全域(8千359世帯・1万8千213人)に避難指示が出た。市内では、津久見川、徳浦川が氾濫。市役所をはじめ広範囲で浸水した。津久見駅(JR日豊本線)ではホームの高さまで冠水。線路等は泥で埋没、道床が流出した。また、徳浦信号場(臼杵-津久見間)で大規模な土砂崩れが発生するなど、3か所で土砂流入があった。

大分県は17日午後3時25分、陸上自衛隊に災害派遣を要請。隊員約110人が津久見市ほか、県内7市に出動した。また大分、宮崎両県では、約13万人に避難指示が出た。

知らなかった

あの日、9月17日は帰院日だった。台風のため、新幹線は運休。しかし市電やバスは午後運行再開、鹿児島市内でとくに大きな被害もなかった。翌18日、新幹線は始発から運行。帰着した福岡も何事もなかったかのよう。帰院が1日遅れただけ、ほかに気にとめることもなかった。

10月の下旬だった。神学院で、津久見の窮状が知らされた。津久見教会の主任

司祭から、復興支援ボランティア活動への神学生派遣の依頼があったという。熊本地震や九州北部豪雨災害の被災地支援ボランティア活動にかかわってはいない。しかし、台風18号について、認識はゼロ。津久見のことはその日まで、何も知らなかった。迂闊であった。自らの不明を恥じた。

床下浸水607棟など、全壊・半壊も含め建物被害は1千835棟。土木災害166か所、土砂災害21件、農林水産被害452か所、上・簡易水道施設被害42か所、下水道施設被害8か所、事業所被害が258件だった(10月27日現在)。

津久見へ

11月4日から5日、神学院祭の振替休日を利用して、初めて津久見へ。日豊本線が復旧しておらず、臼杵駅からは代替バス。津久見駅では津久見、佐伯両教会の主任司祭を務める高橋和希神父が迎えてくれた。災害から1か月半余りが

思い出すとくらくらする

平成29年台風18号豪雨被災地(津久見)復興支援ボランティア

鹿兒島教区神学生

社協)に設置のボランティア・センターで配置された活動は、市街中心部の側溝の汚泥除去作業だった。蓋を外し、側溝を埋め尽くした汚泥をシャベル等で掻き出し、土嚢に詰める。蓋がなくコンクリートで遮蔽された箇所は、身を屈め潜るようにして掻き出す。

ボランティア活動

次に行ったのは11月21日から23日。神学生有志3人と一緒だった。すでに社協のボランティア・センターは閉じられていたが、高橋神父は社協や農家等と連絡を交わし、二ツを把握、復興支援ボランティア活動を継続していた。作業は、駐車場やゲートポール場に堆積した土砂の除去。本来の表土が現われるまで剥ぎ取り、浄化のため、石灰を散布する。三度目は、12月20日から24日。再び単身で。津久見はみかん産地として知られるが、高齢化と後継者不足に悩む。災害を機に栽培をやめた農家もあるという。農業支援のボランティア活動として、みかんの収穫を手伝う。また前回同様、土

砂の除去作業も行った。薄れていく。報道等で聞きすぎることも減少した。被災者の困窮を想像する機会さえままならない。

ボランティア活動という宣教と証し

高橋神父は、小柄で温かな、とても真面目な方だ。津久見と佐伯両教会の主任司祭を務め、両教会に併設の、幼稚園の園長も兼ねる。そして現在、津久見教会に設置のカリタス・ジャパン大分(津久見ベース)の責任者として、被災地復興支援活動に従事。大分教区のサポートがあるとはいえず、孤軍奮闘し奔走する姿に感銘を覚えた。

ボランティア・ベースにおける司祭の不在の影響は、意外に大きい。ミサの有無もさることながら、ボランティア活動へ向かう

折、祝福と派遣できえあるのとなりのとは、土気も安心感も雲泥の差。神父自らが作業に参加するならば、その宣教効果も計り知れない。実際、津久見ベースでは、信者でない多くのボランティアがミサに参加していたという。また何より、司祭が率先してのボランティア活動の姿は、「隣人とは」という問いへの応答、すなわちキリスト者の証しとも映ろう。

もちろん記憶はしている。「〇〇から何年」というフレーズは繰り返される。併せて、「がんばろう〇〇」などといったスローガンも躍る。だが、その時かぎり、その場かぎりの言葉なら、空虚しい、偽善にかわらない。

薄れていく。報道等で聞きすぎることも減少した。被災者の困窮を想像する機会さえままならない。

折、祝福と派遣できえあるのとなりのとは、土気も安心感も雲泥の差。神父自らが作業に参加するならば、その宣教効果も計り知れない。実際、津久見ベースでは、信者でない多くのボランティアがミサに参加していたという。また何より、司祭が率先してのボランティア活動の姿は、「隣人とは」という問いへの応答、すなわちキリスト者の証しとも映ろう。

4月1日から受付開始

納骨堂・合祀墓の二次募集

唐湊墓地の墓地使用権所有者の納骨堂・合祀墓の使用申請の受付を4月1日から行います。①既にお墓を立てている場合は、更地にして放棄届を出したうえで、②墓地使用権だけを所有し、お墓を立てていない場合は、放棄届けを出したうえで、所定の申請書に主任司祭の署名を受けて申請してください。③納骨堂は使用権金30万円、管理費10万円、合祀墓は管理費10万円が必ず必要です。詳しくは、小教区の墓地委員か教区本部の末吉までお尋ねください。

ご案内

聖霊によるいやしの研修会

テーマ「主の慈しみを知らるために」日程：5月9日から毎週水曜日。6週間(6月20日休み)。午前10時〜正午

指導：フランシス・マッケイ神父(聖コロンバン会) 場所：ザビエル教会 参加費：自由献金 ※テキストをマッケイ師編集『聖霊によるいやし』(500円)使用します。会場で販売

主催：聖霊による生活刷新セミナー奉仕グループ(協力) 司祭 末吉師、バク・ジンヤン師 問合せ：久留 090(4582)1824 柳 090(4587)2187

子どもたちとともに主日の福音を 『こじか』2018年度のご案内

子どもたちに福音を味わう1週間を

わかりやすいと好評の主日の福音解説を中心に、多彩な記事でイエスキリストのまなざしを伝える「こじか」。受洗、初聖体のお祝いやお孫さんへのプレゼントとしてもご好評いただいています。

毎週日曜日発行(年44週) B5判・16頁(ふりがなつき) 定価65円+税(送料別) *15部以上のご注文は55円+税 国内年間定期購読 1部4100円/2部7400円(税・送料込、2部の価格は同じ発送先の場合)

お申し込み、お問い合わせ、見本誌請求は下記にどうぞ。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL: 03-3322-7601/FAX: 03-3325-5322



みんなの善意で故人を納骨堂へ

共同体の在り方を示した指宿教会

指宿教会（ベルナルディノ神父主任司祭）から1月に1人の女性が天に召された。その人の名はマリ・ア・フランシスカ・ペロニカ川畑邦子さん、91歳。永年の闘病生活の末、指宿市の病院で1月10日に亡くなったという。

身寄りがなく大阪から鹿児島に移り住んできたという彼女は1985年にザビエル教会で受洗。その後、指宿に移り住んで、病氣と闘いながら信仰生活を送り続けてきたという。

ベルナルディノ神父は彼女について「信仰の証人だった。病気で苦しんでいた時もいつも喜びの言葉を口にしていた。司祭や信徒の訪問を喜んでくれた。そしてなかなか神さまのもとに呼ばれませんでした」と話すと、ユーモアにもあふれていた」とその生き方の素晴らしさを語る。

そんな彼女を看取った指宿教会の共同体は、身寄りのない彼女の埋葬について話し合った。その結果、家族のように一緒に泣き笑いした彼女のために、教会の有志で協力し合い、昨年完成した教区納骨堂の「合祀墓」を購入し、そこへの埋葬を教会からのプレゼントとしたのだ。

カテドラルで

祭壇・朗読奉仕者選任式

3月11日（日）、ザビエル教会のミサで朗読奉仕者と祭壇奉仕者の選任式があった。

朗読奉仕者の選任を受けたのは田代竜之介神学生、また祭壇奉仕者の選任を受けたのは

お金を出し合って、葬ってあげるといふ体験は初めて。ありがたい教会、誇らしい信者たちだと思つた」と感想を述べた。

皆で看取り、皆で見送つた川畑さんは2月12日、信者の思いの詰まった納骨堂に居を移した。

司教執務室便り

神学院の将来と展望

主のご復活のお慶びを申し上げます。

今年の復活祭は4月1日（日）という区切りのよい日になりました。主の日の文字通り主の復活の日となつたわけでも、主の復活が倍加した感じで嬉しいです。

ところで、4月と言えば入学式。幼稚園から大学まで「おめでとう」の言葉が飛び交う希望の春です。

神学院も例外ではありません。しかし、4月に始まるのは同じでも、神学院にはどこでも見られる華やかな入学式や卒業式はありません。

私の場合、美島神父さんに連れられて、夕食に間に合うように神学校の門をくぐり、院長さんと指導司祭に挨拶をして部屋に案内され、部屋といつても20人ほどが寝起きする共同寮室でしたが、緊張しながら夕食を共にした記憶しかありません。それが入学式みたいなものだと聞いて驚いたものです。

日本には、その神学院が、長崎教会管区の5教区が運営する福岡サン・スルピス大



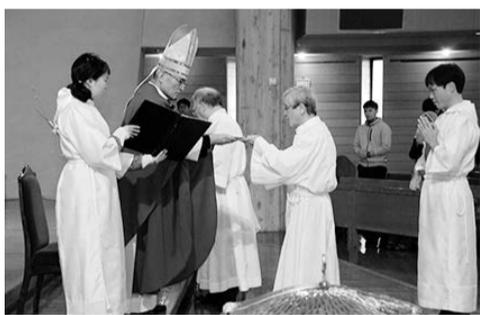
院と東京・大阪の2管区11教区が運営する東京カトリック神学院の2校がありました。10年ほど前にこの2校が統合されて「日本カトリック神学院」となり、前者を「福岡キャンパス」、後者を「東京キャンパス」と呼び、1校2キャンパス制をとってきました。

それはそれで、いいところもたくさんありましたが、新たな見直しが必要で、結局、来年4月から福岡カトリック神学院と東京カトリック神学院の2校制となること、日本司教団で合意されました。形は以前と同じですが、運営に当たる教区を従来のように九州と本州に限定しない「諸教区立」としたのが違うところです。

個人的には、母校が維持されることになったのは嬉しいのですが、召命の促進が大きな課題です。

現在、鹿児島からは諏訪神学生と田代神学生の2人が学んでいます。司祭はもちろん信徒の皆さんにもこれまで以上に関心を寄せたいので、1人でも多くの志願者を送る努力が求められています。

熱いお祈りと呼びかけをお願いします。



身助祭候補者の小島芳武さん（川内教会）の2人。この日のミサは郡山司教司式でさざげられ、式長を出張中の末吉卓也神父に代わって石神秀人終身助祭（阿久根教会）が務めた。ミサには鹿児島市内はもとより、小島芳武さんの所属する川内教会など他の教会からも多くの信徒が駆けつけた。

福音朗読後に説教した郡山司教は、この日の第二朗読「使徒パウロのエフェソの教会への手紙」の一節（わたしたちは神に造られたもの）から、「日本人には謙譲の美德などの心理が働き、褒められると謙遜し

+KABAYAN SEKSYON+
Pagpapatotoo sa Ating Pananampalatayang Eukaristikong

Sa konteksto ng iba't ibang relihiyon sa Asya kung saan mababa sa tatlong bahagdan ay Kristiyano, ang pangunahing paraan para mailahad ng mga Kristiyano ang kanilang pananampalataya ay sa pamamagitan ng pagsasabuhay nito.

Ibig sabihin, aakayin ng mga Kristiyano ang mga kapatid nila buhat sa ibang pananampalataya (tulad ng mga Muslim at Hindu) patungo sa Diyos sa pamamagitan ng kanilang mga gawang katulad ni Kristo.

Kalimitan ang patotoong ito ay nasa anyo ng presensya at pakikipagkaisa sa kapwa tao, dinadamayan sila at ipinadarama sa kanila na sila'y tinatanggap, totoo ito sa particular na paraan para sa mga nabubuhay sa kahirapan o yaong mga nasa laylayan ng lipunan.

Minsan sinabi ni Madre Teresa na kapag nakilala natin si Kristo na binibiyak sa Eukaristiya, mas madali natin siyang makikilala sa mga biyak na katawan ng mga mahirap, mga binabalewala at mga di tinatanggap. Kung mapapahalagahan natin kung paanong ibinuhos ni Kristo ang kanyang dugo at buhay para sa atin, mas madali nating maibubuhos ang buhay natin sa paglilingkod sa mga nangangailangan.

Bilang mga tao ng Eukaristiya layon nating itaguyod ang magandang samahan at "pagkakaisa" sa kasalukuyang mundo na labis na naghahangad ng kapayapaan. Sa kontekstong ito, ang mananampalatayang layko ay may mahalagang papel na maaaring gampanan, sa pamilya, politika, edukasyon, kultura at panlipunang kaligiran.

Sa Kristiyano na mayroon malalim na karanasan at kaugnayan sa banal na Eukaristiya, ay punong-puno ng sigla at galak ang pamumuhay pananampalataya. Malaya niyang nadadama sa kanyang buhay ang presensiya ng Diyos. Higit sa lahat, hindi natitinag ang Kristiyano sa ano pa mang mga pagsubok sa buhay, bagkus lalo siyang natutong maging kaisa ng Panginoon sa pakikiisa niya sa Banal na Eukaristiya.

Katesismo sa Taon ng Habag (Fr. Dino Orolfo)

臨床バストラル教育 センター主催 研修会

科目Ⅱ「価値観の明確化」

開催日 5月4日（金）

6日（月）9時～17時

3日間

場所 カトリック鹿児島司教区本部（ザビエル教会）

講師 W・キップス神父（臨床バストラル教育センター理事長）

問合せ TEL 0465（42）5989 田中まで

会と催し 4月

- 1日（日）復活の主日
 - 2日（月）中野裕明神父叙階記念（1978年）
 - 4日（水）レヒナ神父命日（2015年）
 - 5日（木）聖体礼拝・カテドラル
 - 7日（土）成相明人神父霊名（聖ラ・サール）
 - 8日（日）復活節第2主日（神のいつくしみの主日）
 - 9日（月）神のお告げ
 - 12日（木）ザビエル上陸記念祭実行委員会・教区本部・19時
 - 15日（日）復活節第3主日
 - 16日（月）司祭評議会・教区本部・14時
 - 17日（火）コンベンツス・教区本部・10時
 - 22日（日）復活節第4主日
 - 23日（月）世界召命祈願の日
 - 23日（月）アン神父叙階記念（2006年）
 - 25日（水）オリブの会・教区本部・19時
 - 25日（水）聖マルコ福音記者
 - 28日（土）マイエル神父命日（1978年）
 - 29日（日）ハンマ神父叙階記念（1963年）
 - ▼萩原義幸神父叙階記念（2010年）
- 祈りの意向
- 世界共通 経済活動に責任ある立場の人たち
 - 日本の教会 被災者

【差し上げます】日本カトリック神学院諺紀要に掲載された諏訪神学生の論文「アンテロー・デ・ケンタルの風景 その生涯と思想に関する哲学的考察」が、数に限りがありますが抜き刷りになっています。読んでみたい方は教区本部までご連絡ください。TEL 099（226）5100

御旨の行われんことを

金祝の本人の挨拶から故・田邊

私は鹿児島教区に來たくて来たわけではありませぬ。その時の小神学校の校長が怖かったものですから、「お前が行け」と言われ、仕方なく「はい」と言っただけです。

私たちは13人入学したのですが、そのうち5人が鹿児島教区になりました。すでに一年先輩の2人が鹿児島教区になっていました。でもいろいろな事情で私が1人残されて、とうとう神父になってしまいました。こういふふうには偶然というのでしようか、あるいは運命のいたずらというのでしようか、鹿児島教区の神父になってしまいました。

いい言葉で言えば、神様の御旨だったということになるのでしようか。私は記念のご絵に「御旨の行われんことを」と書きました。というのも、偶然といいますが、そういったものは実は神様の御旨なのだと感じております。鹿児島教区司祭になるのもそう



司祭団がサルヴェ・レジナを歌い、田邊師を葬送

でしたが、神学校に行くのもそういった変な格好で行くことになりました。郷里の主任司祭は司祭の召命に非常に熱心な人でした。

ある日、母は「印鑑を持って来い」と主任司祭に呼びつけられたそうです。母は「また何か徹が悪さをしたのではないか？」と行ってみると、神父は「息子を神学校にやれ」とのこと。実は長男が神学校に行きました。これは姿形も、頭も、成績も良く「間違いない神父になるだろう」と思われていたのにダメでした。次の弟、そのまた弟と次々に勧誘されたのです。母が呼ばれたのは、母が主任司祭に「いや、徹はだめです」というものから押し問答になりました。

なかなか決着がつかないもので、私が呼ばれました。行ってみると母は涙を流して神父に抗議していました。

「もし徹が、自分は神父になる、と言うのであれば財産を潰してでも行かせます。それをなれないと分かっているのにどうして神学校にやるのですか。兄弟の中で一番出来が悪いこの子をやるわけにはいきません」。母は涙を流していました。とうとう神父から「お前はもうもう」と直接聞かれました。私はどちらにも味方しないように「やれば行

徹神父を偲ぶ

くし、やらなければ行かない」と答えました。この神父は「それなら、この子は行くと言っているのに、親がダメだと言っている」と説得したのです。母も仕方なく印鑑を押ししました。父もどうせなれないだろうと思っただけで、辞めるなら早く辞めろ。長くいてから辞めると信者さんの迷惑になるから」と言っていました。

神学校で学んでからも「さて、私はどうしよう」とぼーっとしているうちに軍隊にとられました。軍隊はあらゆる悪と罪が集まるところでした。しかし200人くらいいる兵隊(中隊)の中で、私と一緒に入った2人はとても素晴らしい人でした。みんなが悪いことばかりしているのに、この2人は清廉潔白、

絶対に悪に手を染めませんでした。私は「彼らはカトリック信者かもしれない」と思いました。

しかし当時、特に軍隊内で「カトリック」なんて口にできません。そこで「お前、お前はどこから来た？」と探りを入れてみました。すると「長崎は五島の若松から来た」との答え。当時、若松の神父は畑中神父。「神父さん」とは言えないので「畑中さんは知っていますか？」と聞くと、「知っています。神父さんでしよう」と答えました。それで信者だと分かり「お前は信者だったか。俺も信者」ということになりました。もう一人にも同じように探りを入れるので、信者であることが分かりました。それでカトリックであることがどんなに素晴らしいかというのを理論ではなく、体験的に分かりました。

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 4月号

今年2月22日、日本カトリック司教協議会が内閣総理大臣宛の要望書を提出した。16人の全司教の連名である。その内容は「天皇の退位と即位に関する一連の行事にあたって、日本国憲法が定める政教分離原則を厳守し、国事行為と皇室の私的宗教行事である皇室祭祀の区別を明確にする」とである。

この要望書は、改憲の動きが加速するなかで、「政教分離の原則」が崩壊しにされ、やがては「信教の

がいろんなことを信じているのは真実なるがゆえに」と書いてあるのを読みました。理論的にはこれに感動しました。

この二つのことがあって、「よし、神父になろう」と決心したので。そういうふうには偶然の偶然、あるいは道をどう間違ったか分からないようにして、神父になり、そうしてここまですべてしまいました。今考えてみますと、それはやはり単なる偶然や運命のいたずらなどではなく、「私が知らないところで神様が導いてくださったのだな」と思えるようになりました。

文芸

短歌

吉野教会 中江 均

居間に在すくすしきバラの
マリア様祈り誘うロザリオ
御手に
主を知らぬ友の棺に手を合
わせ響く木魚にレクイエム
聴く

鴨池教会 前田 儀子

春疾吹き去りし庭に乳色の
薔薇の花片あまた散り敷く
珈琲が苦きかをりを立つる
宵未だに心の闇は眞深し
砕け散る夢も集めて妹の彼
岸の壇に庭のこでまり手向
く

した。どうもおかしいと思えるほどの者までも神父になるよう神様は用意してくださったのだと考えています。

どうか皆さん、お子さんを神学校にやってくたさい。でもいい子はダメです。これはもう神父には向かないと思う子がいましたら、どうか神学校にやってくたさい。私という事実が証明しています。百の理論より一つの事実が大事です。どうかそのような子がおりましたら、神学校にやってくたさい。本当にありがとうございます。

自由」も侵害されるおそれへの危機感を表明したものである。政府は来年行われる「大嘗祭」(天皇即位後に初めて行う新嘗祭であり、神道の宗教的儀式)を公的性格をもつ皇室行事として行おうとしている。また、天皇の神的地位を示す「三種の神器」のうち、剣と勾玉の継承の儀式についても政府は公的な行事として行うことを検討している。このように天皇の退位と即位の儀式に、前回と同様、国家が関わること

は、日本国憲法が保障している「政教分離の原則」に反することである。戦前、日本政府は「神社は宗教にあらず」として、国家神道を国から特権を受ける宗教として優遇していた。その結果としてキリスト教や他の宗教は弾圧され、国民の信教の自由は制限されていた。神社に与えられた国教的地位と教義は軍国主義の精神的支柱でもあった。戦後「神道指令」(1945年12月)、「天皇の人間宣言」(1946年1月)が出され、その後日本国憲法は、政教分離を厳格にし、国から特権を受ける宗教を禁止し、国家の宗教的中立性を明示したの

である。(1947年5月)こうして戦前の「国家神道」は解体され、国民の信教の自由は制度としても保障されることになった。ところが、近年国家神道を復活させようとする動きが見られるのである。その一つが「教育勅語」の再評価であり、さらに皇室祭祀(神道の宗教的行事)への国家の関与である。今回の要望書は、国家神道のもとで戦争を行ったことへの反省と戦争責任にも触れている。ひとたび戦争が起きると「加害者」か「被害者」のいずれかに与することになる。戦前のキリスト者は、国家との関係では「被害者」であった

が、アジアの国々の人々に対しては「加害者」であった。カトリック教会の「戦時活動指針」(1943年8月)には、「本教団の総力を結集して、大東亜戦争の目的完遂に邁進すべし。」と記されており、信者も戦争に協力させられたのである。歴史の過ちを繰り返さないために、政教分離の原則を守り、憲法9条は改正すべきでないと考え

2018年黙想会のご案内

儀式よりも自己の体験 イエスとの関係

5月12日(土) 9時~13日(日) 16時
11月 3日(土) 9時~ 4日(日) 16時
場 所: マリア山荘 (霧島市溝辺町麓3616-4/TEL0995-58-2994)
指 導: W・キッパス神父 (レデンプトール会、NPOパストラル教育研究センター 理事長)

参加費: 1万円 (宿泊代・食事代含む)
※1日目の昼食はご用意ください。どなたでも参加できます。1日だけの参加も可能です。お問い合わせください。
申込先: 福沢智子 TEL・FAX0993-23-1828 携帯090-2083-9223

社会問題の分かち合い

日時 4月21日(土) 13時~15時 場所 教区本部 内容 原発・改憲 他